

Y09a

2012年金環日食を迎え撃つ；2012年金環日食日本委員会の活動報告

大西浩次, 海部宣男, 飯塚礼子, 大川拓也, 大越 治, 齋藤 泉, 阪本成一, 佐藤幹哉, 篠原秀雄, 塩田和生, 塚田 健, 船越浩海, 洞口俊博, 松尾 厚, 三島和久, 森 友和, 山田陽志郎 (2012年金環日食日本委員会)

2012年5月21日早朝、金環日食や部分日食が日本全国各地で観測された。日食は、多くの人が宇宙への興味を抱く貴重な機会であった。しかし、過去の例から推定すると、不適切な観察方法によって多数の眼の傷害が発症すると考えられた。そこで、日本天文協議会は、この日食を、天文と科学の理解を日本の社会に広げる機会ととらえ、「2012年金環日食日本委員会」を設立し、日本眼科学会や日本眼科医会とも協力し、文部科学省をはじめ各方面へ、適切な日食の観察方法の情報提供など、さまざまな活動を展開してきた(大西ほか2012年春季年会)。

日本天文学会記者会見(3月18日)や、日本眼科学会などの主催の記者発表会(4月26日)などを通じて、今回の日食が日本史上最も多くの方々が観察可能な金環日食であること、不適切な観察方法で目に傷害を受けるリスクが高いことなどを紹介した。また、第3回金環日食シンポジウム(国立天文台4月21日)で、日食直前の問題点を検討した。このような活動の中で、日食直前の段階でも、学校現場や市民の中で、日食に関する理解が広がっていないことがわかった。そのため、5月11日、および、5月17日の2度にわたり、文部科学省にて緊急記者会見を開催し、1)日食に関する誤解について、2)日食観察グラスを持っていても目の傷害を生じてしまう可能性について、3)日食当日に予想されるさまざまな観察行動とその危険性について(目の傷害、交通事故)、4)児童・生徒の危険回避などについて、5)不適切な日食観察グラスについて、さらに、6)日食直前の緊急アピールなどを行った。本発表では、これらの報告と共に、2012年金環日食日本委員会の活動の総括を行う。